



稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージWCS）は、水田における重要な飼料作で、県内の栽培面積は年々増加傾向にあります。近畿中国四国農業研究センターで、今までにない新しいタイプの稲WCS品種「たちすずか」が育成されました。稲WCSの欠点は、もみの消化が悪いためエネルギーロスが大きく、サイレージ発酵に必要な糖含量不足による不良発酵が起きやすいことです。その点、

ける「たちすずか」の栽培適性と稲WCSの飼料特性を調査しました。
「タチアオバ」と比べると、「たちすずか」は稈長（かんちよう）が長く、穂長が短く、単少糖含量が高い品種であり、乾

稲WCS専用品種「たちすずか」

茎葉が多く高糖分 消化率も高く有望

「たちすずか」は、もみの割合が低いため消化の良い茎葉が多く、糖を多く含むなど、既存品種の欠点を改善した品種として注目されています。そこで、稲WCS品種として一般的な「タチアオバ」を対照に、本県にお

物収量では106.5〜122%と同等以上の収量性が確認されました（表）。稲WCSでは、乳酸含量が高く、pHが低く、良好な発酵品質を示しました。さらに、試験管レベルの酵素試験では消化率が高く、黒毛和種繁殖牛4頭による稲WCSの摂取量が「タチアオバ」の約1.5倍と高かったことから、飼料価値および牛の嗜好（しこう）性が高いと評価されます。以上のことから、「たちすずか」は本県で普及可能な有望品種であると考えられます。
（長崎県農林技術開発センター・深川聡）

飼料稲の諸形質および収量性

地区名	品種名	稈長 (cm)	穂長 (cm)	乾物収量 (kg/a)	指数 (%)	単少糖 (%)
平戸市田平町	たちすずか	117.6 ^{A1)}	13.2 ^B	159.9 ^{ns}	115	11.1 ^A
	タチアオバ	105.2 ^B	24.1 ^A	138.9	100	5.9 ^B
雲仙市吾妻町	たちすずか	119.5 ^A	13.0 ^B	153.6 ^{ns}	122	10.3 ^a
	タチアオバ	84.9 ^B	23.5 ^A	126.0	100	3.0 ^b
平戸市川内町	たちすずか	100.6 ^A	10.9 ^B	117.1 ^{ns}	107	—
	タチアオバ	88.3 ^B	22.2 ^A	109.8	100	—

1)異なる肩文字は有意な品種間差を示す(大文字:1%,小文字:5%,ns:有意差なし)